

ガーデンシティーと植物資源調査報告 —シンガポールおよび東マレーシアの水辺環境—



研究第四部 研究員 池田 正

1. はじめに

本調査は、毎年（財）都市緑化技術開発機構が、海外における植生および原生自然の実態や最新の都市における緑化事情等を調査することを目的に、海外調査団を派遣しているもので、第24回となる今回は、シンガポールと東マレーシア カリマンタン（ボルネオ）島を視察することとなった。シンガポールにおいては、緑化行政や関連事業等、緑に関する景観への取り組みを、東マレーシア カリマンタン（ボルネオ）島においては、代表的な熱帯の汽水域の植生であるマングローブをはじめとする自然の生態系やこれらの保護の現状や、野生動植物の保護施設などを視察した。長期にわたる視察で多数の場所を訪問したが、そのうち河川に関連したものを中心に報告する。

2. シンガポール

シンガポールでは、1960年代より継続的に緑化に取り組んでおり、国立公園庁によって、マスタープランの策定と確実な実行、植物研究と維持管理、法による緑の保護規制といった緑化政策が進められている。現在は、緑と緑を結ぶパークコネクターネットワークの整備と、優れた自然環境で生物多様性を有する重要な地域の保護・保全、建築物の屋上や壁面を緑化するスカイライズ緑化などの政策によって、景観の創造が推進されている。

シンガポールでは、自然保護区や、パークコネクターネットワークの整備、屋上緑化、街路樹等の現状を視察した。このうち、最も河川と関係のある視察先が、スンガイ・ブロー自然公園（写真1）と、パークコネクターネットワークが併設されている川（写真2）であった。スンガイ・ブローは、マングローブが広がる汽水域の湿地帯で、渡り鳥の中継地として保護されている場所でもある。木道の設置や植林なども行われ、積極的な湿地の保護活動が行われているようであった。



写真-1 スンガイ・ブロー自然公園

パークコネクターネットワークは、河川沿いに設置されている場所を何カ所か視察した。いずれの場所も、川はコンクリートで囲まれており、公園と接して

いる場所であっても、水辺へのアプローチもなかった。河川を生かした景観形成という視点から見ると、まだまだ課題があるようであった。



写真-2 シンガポール市内の河川

3. 東マレーシア カリマンタン（ボルネオ）島

東マレーシアでは、おもに自然の生態系や野生動植物の保護の現状を視察した。その中でも、キナバタンガン川のマングローブは圧巻であった。下流部に広がる約26,000haの湿地



写真-3 キナバタンガン川のマングローブ

地が野生生物保護区に指定されており、この取り組みはWWFによって「Gift to the Earth」として顕彰されている。船から水際に広く成立している大規模のオヒルギ類やマヤブシキ類、ニッパヤシなどの植物群落を観察した。上陸することはなかったが、時折干潟に船をつけて、一部のマングローブの葉や果実、花に実際に触れることもできた。また、サイチョウやテングザルなどの貴重な生物も見ることができた。

4. おわりに

今回のこの視察で、都市緑化の計画や維持管理から原生的な自然の保護や保全の実態まで、緑に関する様々な知見を得ることができた。貴重な機会を与えて下さった皆様にこの場をかりて御礼申し上げます。



写真-4 サラワク川の河畔公園

